

学校法人湘南ふれあい学園 2024年度事業計画

目次

I	学校法人の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	学校法人湘南ふれあい学園の教育指針・・・・・・・・	6
III	学校法人湘南ふれあい学園中長期計画・・・・・・・・・・8・・	
IV	2024年度事業計画の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	9
V	各学校の重点項目の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	14
VI	財政計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
VII	施設・設備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
VIII	生涯学習事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
IX	収益事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
X	監査計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29

I 学校法人の概要：

学校法人湘南ふれあい学園は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を理念とし、高度な専門知識と技術を修得する意欲を主体的に持ち、人と協働しながら、社会に奉仕でき、次世代のリーダーとなる保健医療人・社会人を育成することを目的とし、湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校、湘南医療大学附属下田看護専門学校、医療ビジネス観光福祉専門学校、幼保連携型認定こども園みどり幼稚園を運営しています。本学園の各校各部門が教育理念に基づき、具体的な教育方針に則り、教職員等の人事計画、財政計画、組織運営計画等を事業計画に基づいて実施する所存です。

理 念

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当し、そして、社会へ奉仕する事をめざすものです。わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践

2 生命^{いのち}を全うしていただくための知識・技術の習得

3 その人らしさと個別性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

教職員の行動基準

1 使命

ふれあいグループの理念を基本として、地域の人々の幸せに役立つ保健・医療・福祉・教育を保障するために、専門職的で倫理的な医療と教育を行なうべく最大限の努力を尽くす。

2 地域社会への貢献

ふれあいグループの医療と教育機能を地域の医療・教育体系に連携し、効率的な地域サービスの成果を挙げることに努める。

3 研修と教育

教育者としての研修に励み、ふれあいグループとして提供できる医療教育水準の向上と後進の教育に努める。

4 記録と守秘義務

記録を完備し確実に管理するとともに、職務上知り得た個人の秘密は厳守する。

5 管理運営

学生中心の教育の心構えを堅持し、ふれあいグループが地域社会に必須の医療並びに教育施設として存続できるよう、公正で合理的な管理運営に努める。

事業基本方針

- 1 私たちは、PDC 活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生・園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

全教職員参加

- 1 PDC 活動の推進（部門・個人 PDC の精度向上）
- 2 安全管理体制の強化（委員会活動の活性、規程類の再点検）
- 3 FD・SD 活動、全体研修活動の推進（授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上）
- 4 業務改善運動の推進及び6S活動の実践
業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化

法人の概要

1 設置する学校（学校名・学部・学科・専攻等・開設年度）

学校名	学部・学科・専攻等		開設年度
湘南医療大学	保健医療学部	看護学科	2015年
		リハビリテーション学科	
		理学療法学専攻	
		作業療法学専攻	
	薬学部	医療薬学科	2021年
	大学院 保健医療学 研究科	保健医療学専攻	修士課程 2019年 博士後期課程 2024年
専攻科	公衆衛生看護学専攻 助産学専攻	2022年	
幼保連携型認定こども園 みどり幼稚園	1 歳児、2 歳児、3 歳児（年少）、4 歳児（年中） 5 歳児（年長）		1949年 ※2017 年より 幼保連携型認定 こども園
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科		1994年
茅ヶ崎リハビリテーション 専門学校	理学療法学科		1998年
	作業療法学科		
	言語聴覚学科		
	社会福祉専攻科（付帯教育事業）		

湘南医療大学附属 下田看護専門学校	看護学科	2004年
医療ビジネス観光福祉 専門学校	医療ビジネス学科	2014年
	観光学科	
	介護福祉学科	2019年
介護福祉士実務者研修（付帯教育事業）		

2 学生・園児数・学校別

[湘南医療大学]（学部・学科等、入学定員、収容定員、入学者、在籍者、2023年度卒業生数）

学部・学科・専攻等		入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2024.4.1				2023年度 卒業生数	
					1年	2年	3年	4年		
保健 医療 学部	看護学科	140	500*	147	150	140	134	78	77	
	リハビリテーション 学科	理学療法学 専攻	40	160	44	44	43	41	45	33
		作業療法学 専攻	40	160	40	40	41	34	37	29
薬学部	医療薬学科	130	520**	62	65	81	54	27		
大学院	修士課程	12	24	9	9	6			14	
保健医療学研究科	博士後期課程	3	3***	6	6					
		365	1,367	343	314	311	263	187	153	

*2022年4月より入学定員140名 **2021年4月設置 ***2024年4月設置

専攻科	公衆衛生看護学専攻	20	20	20	20		20
	助産学専攻	15	15	15	15		15
		35	35	35	35		35

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園]

認定区分	入学定員	収容定員	在園者数2024.4.1					2023年度 卒園生数
			1歳児	2歳児	年少 (3歳児)	年中 (4歳児)	年長 (5歳児)	
1～3号認定	—	218	8	10	55	65	59	61
	—	218	8	10	55	65	59	61

[茅ヶ崎看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2024.4.1			2023年度 卒業生数
				1年	2年	3年	
看護学科	80	240	68	69	73	71	61
	80	240	68	69	73	71	61

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2024.4.1				2023年度 卒業生数 (修了)
				1年	2年	3年	4年	
理学療法学科	70	280	61	64	60	67	52	49
作業療法学科	30	120	9	9	22	12	13	21
言語聴覚学科	35	70	31	31	26			30
	135	470	101	104	108	79	65	100

(付帯教育事業)

社会福祉専攻科	80	160	36	36	62			68
	80	160	36	36	62			68

[湘南医療大学附属下田看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2024.4.1			2023年度 卒業生数
				1年	2年	3年	
看護学科	40	120	15	17	21	36	26
	40	120	15	17	21	36	26

[医療ビジネス観光福祉専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数2024.4.1		2023 年度 卒業生数
				1 年	2 年	
医療ビジネス学科	40	80	19	20	13	24
観光学科	—	80	—	—	16	16
介護福祉学科	60*	95*	53	53	18	27
	100	270	72	73	47	67

(付帯教育事業)

介護福祉士実務者研修	30	30×3	—	—		24
		90	—	—		24

2024 年度介護福祉士実務者研修は 6 月の 1 回開講予定。

3 人事計画及び組織

(1) 人事計画

各校（園）の事業計画を達成するために資質の高い人材を登用し、全教職員が理念の実現に向けて教育研究活動の維持向上に努め、社会の要請に応え一層の強化を図ることが出来る組織を編成するため、各部署の適正人員数の配置を進める。

(2) 職員配置

2024 年度の各学校別の専任教職員数（常勤換算数）は以下のとおりとする。尚、大学は、教授、准教授、専任講師、助教、助手の内訳を記載する。

	2024 年度現員 (2024.4.1)		計
	教員	職員	
湘南医療大学	128	48	176
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	24.075	4.88	28.955
茅ヶ崎看護専門学校	20	6	26
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	21	10	31
湘南医療大学附属下田看護専門学校	11	4.8	15.8
医療ビジネス観光福祉専門学校	13	3	16
法人本部	0	4	6
計	217.075	80.68	297.755

[湘南医療大学]

学部	学科・専攻	教授		准教授		講師		助教		助手		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保健医療 学部	看護学科	5	13	0	5	3	6	3	8	0	3	11	35	
	兼担	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3	
	リハビリテーション 学科	理学療法 学専攻	7	0	1	2	3	0	1	0	0	0	12	2
		作業療法 学専攻	2	1	3	0	1	2	1	1	0	0	7	4
薬学部	医療薬学科	16	3	6	4	6	1	4	2	0	0	32	10	
計		30	18	10	12	13	9	9	12	0	3	62	54	

大学院保健医療学研究科（修・博）	1	2	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	5
兼担	10	10	2	4	0	0	0	0	0	0	0	12	14
計	11	12	2	6	0	0	0	0	1	0	0	13	19

専攻科	0	0	0	3	0	1	0	2	0	1	0	7
兼担	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	0	2	0	3	0	1	0	2	0	1	0	9

別科準備室	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1
計	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1

II 学校法人湘南ふれあい学園の教育指針：

1 教育力を高める活動

I 学園各校は、教育力を高め、学生の学習力や学力の質保証を達成させると同時に、学力の到達度の確認・点検を行うための活動として、FD/SD 活動を実践しています。教職員は、学生の学習力を引き出し、やる気を目覚めさせ、卒業目標(ディプロマ・ポリシー)にかなう最高の人材養成教育を行うと同時に国家試験に合格する教育を実践します。

II 教員は、担当授業科目においてカリキュラムポリシーに沿った水準を超える学力を達成するために情熱をもって教育し、学生が理解できるように教え方を工夫します。また、学生の毎日の勉強の習慣づくりを指導します。

2 教員の資質を高める活動

1) 中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(平成24年8月28日)(抄)「2. これからの教員に求められる資質能力」において、教員は、不断に最新の専門的知識と指導技術等を身に付けていくことが重要となっており、「学びの精神」がこれまで以上に強く求められていることが以下に示されています。本

学園も、その答申の趣旨に沿って、教員の資質を高める活動を実践します。

I 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)

II 専門職としての高度な知識・技能

- ・教科や教職に関する高度な専門的知識（グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む）

- ・新たな学びを展開できる実践的指導力（基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力、判断力、表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力）

- ・学修指導、学生指導、学部学科経営等を的確に実践できる力

III 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、チーム力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)

2) 21世紀の大学像と今後の改革方策について-競争的環境の中で個性が輝く大学-(答申要旨 平成10年10月26日大学審議会)における教育方法等の改善の中、「授業の設計と教員の教育責任」を実践します。特に、本学園の教員は教室や実習室における授業だけでなく、授業の前提として読んでおく文献を指示する等学生が事前に行う準備学修・復習についても指示を与え、実際の現場で躓かないように実習前には学内でのシミュレーション実技を繰り返し指導するなど授業設計や学修指導内容を策定します。

3 学生の人間性を高める活動

1) 理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の実践できる学生を教育します。

2) 本学園は、人間性を高める教育活動として、湘南医療大学であれば、「総合教育科目」の科目群、看護・医療系専門学校であれば「科学的思考の基礎と人間と生活、社会の理解」の科目群において、人間形成のために必須な科目を学修し、心の成長につなげます。各校では、文学、倫理学など初年次教育にこれらの科目を履修することにより涵養され、医療従事者として必要な資質の形成を目指します。

また、学生の積極性と社会性を涵養する教育の一貫として、学園全体で行うクリスマスキャロリングは、新型コロナウイルス感染拡大防止により、病院施設に出向く方式から、患者様利用者様にメッセージやクリスマス飾りをお送りする方式に変更しましたが、自宅と異なる環境で年末年始を過ごす方の気持ちを考え、それらの方たちにお送りするメッセージを考えることで、医療人を目指す学生としての人間形成に大いに役立っています。社会に貢献し、人との繋がりを感じ、知見を広げることが将来の医療活動に大きな意義をもたらす活動として継続していきます。

3) 本学園は、ふれあいグループ病院施設と連携して、公開講座、保健医療福祉に関わる学園広報活動及びイベントを実施します。今後も、地域連携活動に参加し、地域の方々を支援する活動を通して社会貢献を行い、協力精神を学びます。

4 学生の将来につながる指導力の発揮

教員は、医療従事者を目指す学生に、授業での教育の効果を指すだけでなく、どのような過程を踏んでその学生が学問的に、人間的に、成長していくかを考えて、学修や学生生活に関するアドバイザーとして、学生の成長に貢献します。

Ⅲ 学校法人湘南ふれあい学園中長期計画：

湘南ふれあい学園は、2019年度を初年度とする中長期事業計画を掲げ、2024年度は、昨2023年度から始まる5年間で第2期事業期間とし、更に地域社会に必要とされ貢献できる学園運営を推進していきます。

第2期事業計画（2023年度～2027年度）

中期事業方針：主体性、多様性及び協働性の強化により、「学修者本位の教育力」を結集し、学園設置校としての「総合力」を育む

1. 教育ビジョン

(1) 高い倫理観と高度な知識技術を修得した人材を育成するため、学園の理念に基づいた教育プログラムを充実させる。

(2) 医学・医療的機能のみならず、全人的に理解する教育を実践する。

(3) 地球規模の視野で考え、地域視点で行動できる生涯教育システムを確立する。

(4) 高度な専門性を有する教育者と研究者を育成する。(大学・大学院)

(5) 多職種協働・連携を支えるチーム医療教育を推進する。

(6) 社会的・職業的自立に必要な能力を養うための「教育の内部質保証」を推進する。

2. 研究ビジョン（大学・大学院）

(1) 高い倫理観に基づく研究活動を推進する。

(2) 特色ある研究を行うために看護・医療・薬学分野横断的な基盤をふれあいグループの病院と確立する。

(3) 地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる研究活動を推進する。

(4) 研究ネットワークを多様化させて、成果を広く社会に発信する。

(5) 研究活動を通して、競争力を持ち、豊かな人間性を有する人材を育成する。

3. 地域連携・社会貢献ビジョン

- (1) 地域社会に開かれた教育機関として、各校の英知を地域社会に還元する。
- (2) 地域社会と連携し、本質的ニーズを見極めて、より良い未来の創造に寄与する。
- (3) 人々が安心して暮らせる豊かな地域社会（コミュニティ）の形成に貢献する。

4. 管理運営ビジョン

- (1) 学園全体が一体となるガバナンスに基づく、公正な判断とバランスある運営を行う。
- (2) コンプライアンス（法令順守）を推進する。
- (3) 教育・研究の質的水準を維持する管理運営組織を確立する。
- (4) 教職員の一体感、意欲の向上、並びに個々の成長を促進する組織を目指す。
- (5) 入学定員を確保できる効果的な入試改革・募集広報活動を実践する。
- (6) 中長期的財政基盤を確立する。

（参考）第3期事業計画期間：2028年度～2032年度

学園中期事業方針：湘南ふれあい学園として地域社会に対して主体性、多様性及び協働性を示すことができる保健、医療、福祉、教育が連携する「湘南ふれあいブランド」を構築する。

IV 2024年度事業計画の概要：

- (1) 中長期計画ビジョンを達成するための2024年度の目標（湘南医療大学・大学院）

○組織、運営に関する目標

1) 学部等の新設

- ・大学院修士課程での「医療管理経営者」養成領域の設置（カリキュラム変更（2025年4月）に向けた準備）
- ・健康科学部（仮称）設置（2026年4月）に向けて申請準備
- ・介護福祉別科設置（2025年4月）に向けて申請準備
- ・リハビリテーション学科は、教職課程設置の準備を行い、特色ある教育課程を編成する。また、生涯教育として、認定及び専門理学療法士・作業療法士の養成推進やスキルアップ講習の開催も検討する。
- ・看護キャリア開発コアセンターにおいて、認定看護管理者教育課程（サードレベル）の申請準備

2) 教職員の充実

- ・若手中堅事務職員の計画的補強と定着率の向上
- ・薬学部、研究科博士後期課程、健康科学部、介護福祉別科等、新規課程の設置に伴う教職員の補充
- ・学園設置校間における事務職員の異動の促進
- ・教員の年齢別、専門分野別の適正配置に関する計画
- ・若手教員の育成

3) 組織の充実

- ・大学院修士課程の教育内容（領域間の統制、看護系科目の設置）及び「健康増進・予防領域」「心身機能回復領域」「助産学領域」及び「新規領域」を含めての再構築の検討

4) 業務の効率化

- ・研究科、学部、学科（専攻）、事務部並びに3キャンパス（保健医療学部・薬学部・横浜山手校舎）の業務処理方法の効率化と迅速な各種手続きの簡素化

5) 補助金の獲得

- ・経常経費補助金の獲得増と私立大学等改革総合支援事業の採択（IRの強化）

○教育、研究の活性化に関する目標

1) 教育内容の改善

- ・国家資格合格率100%を達成するための教育及び学修支援
- ・CBT（実務実習前評価試験）、OSCE（薬学共用試験）に合格に向けた受験準備教育の強化
- ・薬学部学生の能力や理解進度に合わせた授業/補講（Sプログラム）などの導入の検討
- ・医系科目の再編（非常勤講師中心から専任教員への転換）
- ・初年次教育指導の再検討（道徳心、勉学の心構え、大学生活等）
- ・教育内容の平準化に向けた検討（教育力、試験内容他）

2) 教育方法の改善

- ・「何を教えた」から「何を学び、何を身につけたか」に転換した大学教育は、DP・CP・APに基づく学修者を養成のために、教学マネジメントを毎年度見直す。
- ・ポートフォリオ（教育業績記録）に加えて、ディプロマサプリメント（成績証明書付加情報）を導入する。（課程履修の状況、卒論、GPA推移、獲得スキル、資格取得、表彰など）
- ・授業デザイン計画にもとづく「学生を惹きつける授業」の研修
- ・アクティブラーニング形式（能動的双方向授業）の積極的な導入
- ・学生・院生が理解できる「シラバス」活用の見直し
- ・授業評価（アンケート）に基づく授業改善、教育活動改善への活用
- ・大学院生教育の一環としてティーチングアシスタント（TA）制度を導入する。

3) 研究の活性化

- ・外部研究資金導入の促進（全員申請、毎年30%の採択率の獲得）
- ・科学研究費、各種外部研究奨学費、受託研究等の奨励、推進のための支援の充実
- ・研究不正防止計画の遵守（研究倫理eラーニングシステム受講の徹底 受講率100%）
- ・大学・グループ病院間の共同研究の促進
- ・大学ブランディング研究の継続（がん看護、フレイル、認知症研究など）

○新規施設等の整備に関する目標

1) 健康科学部（仮称） 茅ヶ崎キャンパス整備

2026年4月健康科学部（仮称）設置計画：看護学科校舎は茅ヶ崎中央病院隣接地に賃貸で整備、理学療法学科の校舎は、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校校舎を改築する。

2) 介護福祉別科（仮称）藤沢キャンパスの整備

介護福祉士学校設置のため、藤沢駅北口徒歩3分のT H Pメディカルクリニックのビル4～7階を賃借で整備を進め、2025年2月までに改築並びに教育用備品を配置する予定である。

○教育・研究用備品等の更新・整備に関する目標

1) 教育・研究用機器の重点整備

- ・健康科学部（仮称）設置に伴う、看護、リハビリテーション教育用設備の整備
- ・薬学部の実験実習等に関わる機械器具の配備
- ・介護福祉別科（仮称）設置に伴う介護福祉士学校の教育用設備等の整備

○点検評価及び情報公開に関する目標

1) 授業評価に関する目標

- ・学生授業評価アンケート項目の見直し

2) 研究業績の評価に関する目標

- ・学内外への研究者の研究活動を積極的に公表する。

3) 外部評価及び自己点検評価に関する目標

- ・薬学教育認証評価（プレ評価）の受審体制の整備と準備を推進する。
- ・リハビリテーション教育認証評価の受審
- ・看護教育認証評価の受審準備について情報の共有と審査項目の調査等準備を開始する。
- ・日本高等教育評価機構の評価項目に準拠する自己点検評価の実施とIRデータの集積

4) 学生募集の評価に関する目標

- ・入学時アンケート項目の変更

5) キャリ開発・就職の評価に関する目標

- ・卒業後アンケート調査の徹底

6) 情報公開に関する目標

- ・教育、研究企画、イベント、成果等の外部公開の促進
- ・ホームページでの公開情報の拡充と継続

○地域連携及び社会貢献に関する目標

1) 連携の強化

- ・本学の実習受け入れ施設等との連携強化（継続）
- ・実習施設が抱える実際的问题について共同研究を促進する。（継続）

2) 地域貢献

- ・医学・薬学・看護・理学療法・作業療法をテーマとする講演会を神奈川県内の 20 会場において 5 月から 8 月の間に実施する。
- ・地域が開催するイベント等への積極的な参加
- ・医療、看護、リハビリテーション、薬学等に関する地域支援ネットワークの構築
- ・公衆衛生、健康増進・予防、心身機能障害、周産期母子医療に関する地域支援
- ・病院施設訪問（クリスマスキャロリング）の開催
- ・医療職を目指す小中学生に対するオープンラボを使用するイベント開催（こども教育計画、夏の自由研究テーマ探し、科学実験体験、理科を楽しむ講座、実習室での看護体験、リハビリ体験 等）の開催

○入試、広報、学生募集の改善に関する目標

1) 入試制度の改善

- ・薬学部の入試制度の見直し（受けたいと思える大学薬学部）
- ・特待生制度の継続
- ・アドミッションポリシーの再確認

医療人としての適性を有する人材の早期確保のための入試制度の再検討、総合型選抜、推薦型選抜（公募型・指定校型）の AP の再確認及び入試体系の見直し

2) 学生募集・広報体制の改善

- ・広報システムの再検討（大学の独自色を強化する）
- ・ホームページ、SNS の活用（受験生、保護者、高校教員のニーズへの対応）
- ・募集広報地域の範囲拡大、対象、方法等の見直しとデジタル化
- ・学生募集・広報活動に関し、ふれあいグループ医療施設との活動と連携して強化する。（講演会、医療施設見学、医療従事者と協働する OC）
- ・高大連携事業の強化（連携協定を促し、出張講義、サマースクール、研究室訪問などの企画を実施）
- ・小中学生への早期アプローチの強化（学内において医療体験・科学体験会などの実施）

○学生生活、修学及び就職等の支援強化に関する目標

1) 学生生活、修学支援（継続）

- ・ふれあいグループ奨学金制度の推奨
- ・休退学者減少への取り組み
- ・学生食堂等、課外活動施設の改善

- ・チューター制度の充実
- ・学生の「心の相談」への対応窓口・カウンセラーの体制
- ・大学祭支援、オープンキャンパスの機会としての活用
- ・学生の保護者との情報交換、大学理解のための保護者会を定期的に開催する。

2) 就職・キャリア支援（継続）

- ・グループ就職説明会、先輩の体験・アドバイスの活用
- ・就職先施設との情報交換会、学内情報の提供
- ・連携同窓会の諸活動との連携の強化

○その他の目標

1) 安全管理・危機管理体制の整備（新規取組）

- ・盗難、火災、自然災害に対する予防と安全確保に関し、マニュアルの更新、万全の対策、安否確認システムの導入、防災備蓄等、必要な整備を行う。
- ・年2回の避難訓練の開催
- ・オープンラボ、実習室、動物実験、薬物管理等の安全管理マニュアル整備、安全教育
- ・学内コンピュータシステムのセキュリティの確保体制の強化

（2）中長期計画ビジョンを達成するための2024年度の目標（専門学校及び認定こども園）

1) 茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

- ・2026年4月大学学部学科に昇格のための申請の準備
- ・在学生の国家試験100%合格に向けた対策
- ・在学生の休退学率の減少対策（補講、学生相談等）

2) 湘南医療大学附属下田看護専門学校

- ・存続するために大学並びにグループ病院施設と連携した運営
- ・入学定員確保のための施策（学費、学生寮費の見直し）
- ・教育職員の確保対策

3) 医療ビジネス観光福祉専門学校

- ・介護福祉学科の学生確保及び教育内容の充実
- ・医療ビジネス学科（医療事務・IT専攻）の教育内容の見直し
- ・留学生への対応（日本語補講教育・グループ病院施設でのアルバイト斡旋、学費減免補助）
- ・医療ビジネス学科生の休退学者の減少

4) 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園

- ・園舎の老朽箇所の修繕（継続）
- ・教育職員の確保対策

V 各学校の重点項目の概要

2024年度 湘南医療大学 保健医療学部 重点項目における事業計画概要

2024年度 保健医療学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標	2024年度 保健医療学部 事業計画概要		
			看護学科	リハビリテーション学科	事務部
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 1. I R機能の強化	・大学等における I R機能強化に向けた取組を実施するため、統計解析等や I Rに関する知識を有し、学生に関する様々なデータの収集・分析を実施し、機関決定等に資する提案又は情報の提供を行うための専門職を配置する。 ・専任された職員は定期的に研修を受講する。 ・教学 I Rを担当する組織・部局の概要（大学組織上の位置づけ等）及び教学 I Rをきっかけとする教学改善の事例の紹介を情報公開する。		・入学生の入試区分、入試成績、高校区分との相関、そして科目区分毎の成績、国家試験の成績との相関を把握して学生指導に反映する。 ・休退学生や成績低迷者の履修状況との関連性を把握する。	・IRの意義、最新の活用法等についてリハ学科のFD：「大学におけるIR意義と活用」を開催し、効果的な運用法を共有する。 ・入学生の入試区分、入試成績、高校区分との相関、そして大学成績、国家試験成績との相関を把握して学生指導に反映する。 ・休退学生や成績低迷者の履修状況との関連性を把握する。	統計解析等や I Rに関する知識を有し、学生に関する様々なデータの収集・分析を実施し機関決定等に資する提案又は情報の提供を行うための専門職とはどうあるべきかを半年ほどで検討する。 上記の適性を有する職員を任命または採用する。 専任された職員は定期的に研修を受講する。
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 2.学修成果等の可視化	ディプロマサブプリメント（学位証書や成績証明書の補足資料）など、各学生が修得した知識や能力等を明らかにするための取組を実施する。		・学習成果等の可視化の第一歩としてディプロマサブプリメント導入に向けたFDの実施する。 ・卒業後の勤務形態や学術活動状況の実態調査計画を検討する。		他大学におけるディプロマサブプリメント（学位証書や成績証明書の補足資料）など、を調査し、学年末に向けて作成様式、作成手順等を会議体に提案し、組織決定を目標とする。
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 3.アドミッション・オフィサーの配置	入学者選抜実施体制の充実・強化のため、入試・学生募集に係る全学的な企画立案及び全学的な入学者選抜の評価を行う、専門的な専任教員等又は専任職員（アドミッション・オフィサー）を配置する。		・学科の入試WGの委員と入試広報課と連動した入学試験体制の充実強化を図る。 ・アドミッション・オフィサーの配置と入試広報課のとの総合力で学生確保の戦略に看護学科として積極的に参画する。	・学科の入試WGの委員と入試広報課と連動した入学試験体制の充実強化を図り、出願者総数目標値を昨年比115%とする ・アドミッション・オフィサーの配置と入試広報課のとの総合力で学生確保の戦略を具体化にリハ学科として積極的に参画する	入試広報課とアドミッションオフィサーの職権を切り分け、外部から明確に役割が見えるように、配置する。
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 4.高等学校教育と大学教育の連携強化	高等学校教育と大学教育の連携強化に向けて、以下の取組を実施する。 ア 大学等における学修を高校生が経験する取組（合同授業の実施等）の実施 イ 高等学校又は教育委員会との年2回以上の定期的な意見交換体制の構築 ウ 高等学校と大学等との合同研修の実施 エ 高等学校と連携した入学前教育の実施		・直近4年間で受験者総数の多い上位高校に訪問する。 ・受験者総数の多い上位高校を対象に模擬授業並びに入学前教育の実施を図る。	・直近4年間でリハ学科（PT・OT）に受験者総数の多い上位5高校を対象に、高大連携の可能性の検討、高校の進路指導部との連携強化を図る ・受験者総数の多い上位10高校を対象に連携した入学前教育の実施を図る	大学を代表して地方自治体である横浜市や神奈川県を担当部局、と接点を整理し、県立・市立・私立の高等学校に対して相互にメリットある連携方法を模索する。 過年度に実施済みの高等学校を訪問し、学校側の目的や狙いなど再度確認の上整理し、実効性の高いものとしてブラッシュアップする。
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 5.教育リソースの活用	オープンな教育リソースについて活用するため、以下の取組を実施する。 1 自大学等の教育リ-スを広く提供し、講義の教材等としての利用又は自主学習ツールとしての活用を促す。 2 国内外の他大学等が提供するものを、講義の教材等として利用 3 国内外の他大学等が提供するものを、自主学習ツールとしての活用		・オープンな教育リソースの活用推進に向けて取り組みを開始する。特に、国内の他大学等が提供している教材を、講義中に活用する。 ・国内外の他大学等が提供する教材においては、実習前の自己学習ツールとして活用可能なように学生に情報提供をする。 ・これらの提供した教材は年度ごとに集計し、データとして保存しておく。	・本学の三次元動作解析機器、心肺負荷試験装置をグループ病院の臨床研究活動や他大学との共同使用を検討する ・公開講座や臨床実習を通じた教育リソースの活用を前向きに取り組む	関連する会議体の議題で左記の議題を盛り込むことを先生方と共有する。

2024年度 湘南医療大学 保健医療学部 重点項目における事業計画概要

2024年度 保健医療学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標	2024年度 保健医療学部 事業計画概要		
			看護学科	リハビリテーション学科	事務部
②授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用	<p>「学生による授業評価」学生の理解状況を教員が次の授業に生かせるようなリフレクションペーパーを作成するとともに評価の低い授業科目は、担当教員から改善計画書の提出を求め、見直しを図る。</p> <p>また、卒業時や卒業後のアンケート調査の実施後、学生の成長実感や今後の課題等を把握し、教育活動の改善に反映させる方策を講じる。</p>	<p>授業評価アンケート専門科目 総合平均数値 [看護] 4.40以上、[理学] 4.40以上、[作業] 4.40以上</p>	<p>・各授業終了時に「学生による授業評価」を授業評価アンケート及びリフレクションペーパーを用いて行う。授業評価アンケート結果については、各科目責任者が結果に基づき評価し、改善計画書を用いて改善点を明確にする。目標値は平均4.40以上とする。</p> <p>・リフレクションペーパーについては、学生の理解状況、教材の選択、学習環境等について次の授業に生かせるようなリフレクションペーパーを作成し、見直しを図る。また、卒業時や卒業後のアンケート調査を実施し、学生の教育課程全体を通じた成長実感や今後の課題等を把握し、教育活動の改善に反映させる。</p> <p>・教育力を高める実践的FDとして、教育の質改善、ICTを活用した教授方略、ポートフォリオ作成などをテーマに開催し、教員全体の教育スキルを高める。</p>	<p>・学生全員が授業評価に100%参画することを第一とする</p> <p>・リハ学科の専任教員科目は総合平均数値PT4.40以上、OT4.40以上を目指す</p> <p>・総合授業評定4以下の科目担当教員への指導と学科FDでの修正研修の実施を図る</p>	<p>アンケートの実施、回収、集計を適切に対応する。</p> <p>集計後の実施目的に沿った対応を適切に立案し実行する</p>
③学修支援・国家試験対策支援	<p>・学修支援の充実</p> <p>新入生の入試等の成績で基礎学力を見極め、入学前教育や個別の学修支援に役立てる。また、全学において、1教員が10名程度の学生をサポートし、履修計画から修学指導、学生生活相談などにきめ細やかに個別で対応する。</p> <p>・国家試験対策</p> <p>小テストなどの反復問題練習や国家試験の基礎的な学力問題も解かせることも行い、低学年から計画的な国家試験受験対策を実施する。国家試験対策に必要な事業の企画・実施、カウンセリング及び情報収集・提供等を行い、国家試験合格率の向上を図る。</p>	<p>【目標数値】</p> <p>・国家試験合格率：看護師、保健師、助産師、理学療法士及び作業療法士 100%</p> <p>・定期試験追再試験受験者数の減少：80%以上の定期試験合格率</p> <p>・授業科目の合格者数の平準率80%以上</p> <p>・（保健医療学部）国試対策模試等実施回数：[看護] 14回、[理学] 17回、[作業] 17回</p>	<p>・チューター制度により、1教員が10名程度の学生に対し定期的に面談を通して履修指導や学生生活面の指導を行う。</p> <p>・総合教育科目は、専門科目を学ぶ上で大切な基礎学力を確実に身につけるために、丁寧な授業展開によって理解を図ることを目的とする。そのために、入学時のプレイスメントテストやPROGテスト、入学試験成績などから（入試等の力で）基礎学力を見極め、入学前教育や個別の学修支援に役立てる。</p> <p>・学生個々に応じた学修計画を前期・中期・後期の3段階に分けて個別指導のもとに立案し、主体的に取り組めるよう支援する。</p> <p>・1年次から国家試験ガイダンスや模擬試験を実施し、3年次の専門領域の実習までに国家試験の意識高揚と基礎的な知識の定着を目指す。4年次は、国家試験対策ガイダンスや模擬試験、国家試験対策講座、特別講義等を年間を通してコンスタントに計画・実施する。また、各学年において、早期からmanabaを活用した小テストによる反復練習問題などを計画・実施する。</p>	<p>・入学者全員卒業と国家資格試験全員100%合格、全員就職を達成する</p> <p>①専攻ごとの国家試験対策委員会を軸に国家試験ガイダンスの質向上を図り、学生に試験対策情報を継続的に提供する</p> <p>②国家試験対策委員会を中心に1年次からの国家試験対策の戦略、各学年次の三科目模擬試験の実施と結果に基づく補修指導の徹底を図る主体的に模擬試験、解説、補講を実施する。</p> <p>③成績低迷学生への個人面談、個別指導そして保護者を交えた国家試験指導と学習支援を実施する</p> <p>④ゼミを活用した国家試験学習支援体制を強化する。</p>	<p>定期試験合格の積み重ねの先に模試の成績UPが続いていくことを、さらにその先に本番での合格現場での就業とレールが繋がっていることを入学時から新入生に教育し</p>

2024年度 湘南医療大学 保健医療学部 重点項目における事業計画概要

2024年度 保健医療学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標	2024年度 保健医療学部 事業計画概要		
			看護学科	リハビリテーション学科	事務部
④各学部の定員確保	<p>「臨床教育に強い湘南医療大学」ブランドを確立し、学生募集活動を行う。</p> <p>特にOT専攻40名の募集活動の改善を図り、定員を確保する。</p> <p>ア 高大連携校の増加及び高校との結びつきを強化する。</p> <p>イ 低学年層から受験を意識させる対策を行う。</p> <p>ウ 受験生ニーズとの合致、競合校の特徴（強み・弱み）、本学の強み・特徴、学生募集成功校の事例研究、などを分析して広報及び入試の強化を図る。</p> <p>エ HP・SNSなどの広報比重を増やしてタイムリーに更新を行い、教員の講義情報を発信し、志願者の情報確認を行う。</p> <p>オ オープンキャンパスや入試説明会などの内容を根本的に見直す。</p>	<p>資料請求者数・率：12,906件（+3%）（前年度12,531件）</p> <p>オープンキャンパス参加者数：1,325人（+10%）（前年度1,205件）</p> <p>出願者数：767件（+3%）（前年度745件）</p> <p>保健医療学部220名定員確保・受験倍率3倍以上</p>	<p>・横浜山手校舎および専攻科開設に伴う2キャンパス体制の利点、保健師助産師看護師指定規則改正に伴うカリキュラム変更によって特色のある魅力的な教育課程をPRし、募集活動を引き続き行う。</p> <p>・入学者受入れの方針を周知するため、大学案内やホームページで建学理念・目的、教育目的、アドミッション・ポリシーを明示する。</p> <p>・受験者、受験者の保護者を対象としたオープンキャンパス、入試対策説明会や、高校教員説明会を効果的な時期と回数を検討し開催する。</p> <p>・高校への出前講義の依頼を積極的に受け入れる。</p> <p>・入試広報の職員と教員が協力し、神奈川県内だけでなく関東近郊の受験実績がある高等学校をピックアップして個別に訪問し大学・学部をPRする。</p> <p>・入学者選抜の多角的・総合的な評価及び学生の能力を伸長するための取り組みとして、入学生個々の成績の推移や入学選抜の種類、高校の評定平均値等の集計データ、面接記録等の情報を蓄積し、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜が有効に機能しているかどうかの検証を行う。</p>	<p>OT専攻定員確保を第一に以下の活動を展開する</p> <p>・過去受験者数の多い高校をリストアップし、重点的に学校訪問を実施する。特に昨年度、指定校から出願のあった高校に全てに学校訪問を7月までに実施</p> <p>・OTの魅力、本学の強みを進路指導教員に学校訪問で強化し説明をする</p> <p>・OCではOT魅力、OT疑似体験を企画し、高校生をOT専攻に誘うように努める</p> <p>・OC参加者の高校名を抽出し、学校訪問を重ね志願者増に結び付ける</p> <p>PT専攻でも指定校、受験者の多い高校を重点的に学校訪問し、同時にOT専攻の勧誘に務める</p>	<p>入試広報が描いた設計図を確実に実行するために、1カ月ごとに計画との差異を確認する。</p> <p>そのブレ幅に沿った形で計画を見直し実行。</p>
⑤休退学者減少への取組	<p>・本学の休退学者減少への取組</p> <p>・学生の学力や学習意欲を向上させるための教育プログラムや指導体制を充実させる。</p> <p>・学生の居場所や人間関係を作るためのコミュニティやチューターを提供する。</p> <p>・学生のメンタルヘルスや生活支援を行うための相談室や経済的支援を拡充させる。</p> <p>・学生の進路相談などのキャリア教育や情報を提供する。</p>	<p>・中退率：（保健医療学部）休・退学率1.0%以下</p>	<p>・過去の中途退学、休学び留年生の個別の情報蓄積による再発予防策を検討、実践することで休・退学率1.0%を目指す。</p> <p>・中途退学、休学び留年生減少のため、チューターによる定期的な面接、学修支援を充実させ、カウンセラー等により相談・指導体制を整える。</p> <p>・特に1、2年世が在籍する山手キャンパスにおいては、よりきめ細やかな対応が必要である。そこで、学生個別の課題や環境について、3方向から対応する。①チューター教員は定期的な面接を通して課題の発見と対策をとる。②教務事務は教育課程修得状況、欠席回数などのデータを随時発出する。③臨床心理士によるカウンセリングを1回/週実施し、休・退学率1.0%以下を目指す。</p>	<p>・学科専攻として休退学者ゼロを目指すチューター制と学科専攻全体での支援の徹底</p> <p>・学修低迷者、遅刻欠席頻度の多い学生に対し早期支援アプローチを図る</p> <p>・チューター長、各チューターによる指導実績を専攻会議で共有し、学生支援に努める</p> <p>・定期試験GPA2.5以下の学生に対する個別面接の実施100%による支援</p> <p>・低迷者や欠席の多い学生に対しては、早期から保護者との三者面談をズーム等で実施</p>	<p>教授会のたびに統計資料を提供し、学生の学費工面状況など、黄色情報を事務職員の間で共有し、必要があれば教員とも共有する。</p>
⑥FD・SD研修の充実	<p>・FD、SD研修の充実</p> <p>全体研修会（大学部会）及び医療・教育研究会において、FD活動長期計画に基づき、教育方法と研究領域をテーマにした組織的で持続的な数多くのFD活動を積極的に実施する。</p> <p>・大学運営方針を全体研修会時に、理念からスタートする</p> <p>本学の理念を実現するために、今年度の方針、「入学定員の確保、休退学者の減少、教育の質の向上、FD/SD活動、医療・教育研究科会での研究成果の発表、グループ5つの活動」等、全体研修会に全教職員が参加して職員の資質・機能の向上及び改善を図る。</p> <p>・自律的な学生を育てるための取り組み</p> <p>「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」を育てる授業の実施を検討する。ディベート、ピア・インストラクション、復習テスト、ケースメソッド、PBL（Problem-based Learning、課題基盤型学習、プロジェクト学習、反転授業等</p>		<p>・大学の理念実現に向けた全体研修会（大学部会）及び医療・教育研究会において、FD活動長期計画に基づき、教育方法と研究領域をテーマにした組織的で持続的な数多くのFD活動が積極的に実施されるので、全学的な計画と看護学科のFD活動計画を立案する。</p> <p>・自律的な学生を育成するためには、教員の教育手法の進化や、看護学科全体での新カリ教育の進捗と共有が重要である。そのために、FD研修会を年2回以上実施し、教育についての教員間の交流を促進する。</p> <p>・若手教員の育成も重要であり、研修会を年1回以上実施し、若手教員の質向上を図る。</p>	<p>学科FDと専攻別FDの実施を如何に示す</p> <p>・授業相互参観によるFDを前期6回、後期6回を実施し、授業改善を図るFD</p> <p>・臨床実習の事前評価、事後評価に関するFD</p> <p>・アセスメントポリシーに関するFD</p> <p>・アクチブラーニング、ディプロマサプリメントに関するFD</p> <p>・リハ評価機構による受審に関するFD</p> <p>・ハラスメントに関するFD</p>	<p>FD、SDの内容を研修会の大学部会で発表できるよう調整し、そのゴールに向けてマイルストーンを予定していく。</p>

2024年度 湘南医療大学 保健医療学部 重点項目における事業計画概要

2024年度 保健医療学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標	2024年度 保健医療学部 事業計画概要		
			看護学科	リハビリテーション学科	事務部
⑦3つのポリシーを踏まえた自己点検・評価及び認証評価への取組	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価 各学部学科、大学院の3つのポリシーを踏まえた点検・評価の項目の見直しと評価結果のフィードバックと改善事項に対する報告書（案）を作成して学内の諸活動全てに、状況分析も含め、計画、実行、点検・評価・分析というPDCAサイクルを適用し、改善につながるシステムを確立して、実行する取り組み全ての進捗管理が出来るようにする。さらに、外部の意見も取り入れた自己点検・評価を実施する。 各学部学科が受審する認証評価機関の認証評価 データ及び、資料をIRに基づき蓄積し、準備を遅滞なく進める。 2024年度は、保健医療学部リハビリテーション学科の認証評価受審年度 	<p>日本看護学教育評価機構は、看護学教育の質の改善・向上を目指し、看護学教育プログラムの公正かつ適正な評価等を行い、教育研究活動の充実と向上を図るために看護学という専門分野の特性を踏まえた分野別評価を行っている。本学は日本看護系大学協議会に加盟している学校であるため、2023年度には日本看護学教育評価機構へ正会員として入会し、看護学分野別評価事業を通して本学科の教育課程や教育方法、教員組織、入学者選抜方法などの認証評価を受審するように取り組んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の自己点検報告書の作成を10月末までに実施 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構によるリハ学科の認証評価受審を完遂する 	<p>2024年度はリハビリテーションの外部評価を受ける予定もしており、それを適切に実施するだけでなく、その内容を自己点検にも活かし学内にデータを蓄積していく。内部で正しく自己点検できるメソッドを今まで以上に蓄積するだけでなく、さらに第三者的な眼で評価することで、点検の信頼性を高めていくことを大学のブランディングに活かす。</p>	
⑧学生の学修時間や学修成果の把握による教育活動の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 学修成果の測定：（アセスメントポリシーの策定） 直接評価：授業の課題や試験、ポートフォリオ、卒業論文、資格取得など 間接評価：授業内容や試験内容、学習時間、学生満足度など 本学の学習成果の測定内容を検討し、ポリシーとして定め、3つのポリシーと併せ、評価していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生への学修及び授業の支援は、教務委員会を中心に、教員と職員が協働し、より学修が深まるような進捗、クラス別・グループ別等の授業形態、試験等について検討をする。 各科目の学修の進め方の詳細はアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいたシラバス及び授業概要、到達目標、講義日程、単元、単元ごとのテーマと内容、事前学修および事後学修すべき内容と時間、評価方法、教科書、参考図書、オフィスアワー留意事項を明記する。加えて、ICTを活用した教育の計画、体制整備及び双方向授業や自習学習支援などを通して、わかりやすい授業に努める。 その上で3Pに基づいた評価指標の見直しを実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学部としてのアセスメントポリシー方略の明確化 テイティング・ポートフォリオを学科として検証し学修成果との関連性の把握に努める 授業評価の総合平均点、授業満足度に対するリフレクションペーパーとの関連性の把握し、教育法の改善を図る 	<p>本年度具現化するIR機能の一つとして学生の状況および同種分野の大学の情報を収集し、現状を客観的に把握し、ポリシーとして目標をまとめていくことを課題とする。</p>	
⑨キャリア支援と地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 地域及びグループ病院施設への就職者数増に関する取り組み キャリア形成に必要な事業の企画、及び必要な情報の収集を行う。さらに、就職に関する情報収集や指導をグループと連携して、「グループ就職希望者の増加対策 ローラーアップ作戦（案）」を実施する。 グループ病院施設との連携による地域貢献（入試制度・奨学金・共同研究） グループ推薦入試制度を看護学科に加え、リハビリテーション学科でも実施する。また、奨学金をより利用しやすい制度（年数や金額）を検討する。グループの保健・医療・福祉・教育機関と共同研究を進め、その成果を大学教育及び地域社会に還元を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職者数・率：就職希望者の就職率100% グループへの就職率：〔看護〕50%、〔理学・作業〕50% 公開講座：10件163人（前年度+10%（23年公開講座7回65人、戸塚区67人、生涯学習24人合計156人）） 地域貢献事業：5事業（前年度2事業(23年戸塚区、神奈川県生涯学習センター） 中学校キャリア教育（職業体験等）：3校（前年度1校。湘南学園） 	<ul style="list-style-type: none"> チューター教員制度による個別指導を行い、経済等の生活上の問題や履修などの学修上の問題が発生した場合は複数の教員で対応し、初期対応を十分に行う。その後も継続して学生の状況を見守る。 就職支援については、グループ施設の就職支援を1年次から各学年毎に計画し、実施する。特に3年次にはふれあいグループの合同就職説明会を開催し、動機付けを行ってから臨地実習を体験できるようにする。 地域貢献については、グループ推薦入試制度（ふれあい特別推薦）を継続して実施する。 開かれた大学づくりの一環として、また、地域住民の生涯学習機会の一助となるよう、各学部・学科の専門性を活かした公開講座の年間計画を早期に企画・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職ガイダンスと就職支援の徹底化を図る 就職ガイダンスを3月に人事部協力のもと開催し、グループ病院への入職機運を誘う 4年チューター長によるキャリア支援、グループ病院就職の強み等のガイダンス実施 8月末のグループ採用試験調整を図る 本大学院へのキャリアアップの意義を学生に説明する 	<p>2023年度は新型コロナの状況を見ながら、対面方式を中心に講義形式で実施した。2023年は講義とオープンキャンパスの同時開催なども検討する。学内の教員による専門分野の披露だけでなく、著名人（とりわけ医療保健分野に造詣の深い方）なども講師として招き、多面的な医療保健課題を提言していく機会を捉えたい。。また、参加者を増やすため、公共機関との連携を更に深め、戸塚区役所や中区役所との連携を強化する。</p> <p>また、高大連携事業として、2023年度実施した高校と継続して実施するとともに、中高生を対象にした職業体験、大学体験等の地方自治体との連携事業についても、継続して実施していく。</p>

2024年度 湘南医療大学 保健医療学部 重点項目における事業計画概要

2024年度 保健医療学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標	2024年度 保健医療学部 事業計画概要		
			看護学科	リハビリテーション学科	事務部
⑩研究力向上に係る学内計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> 大学等のミッション・建学の精神等に基づき大学等の強みや特色を特定し、それを伸長させる研究計画の策定 大学等の個性・特色が発揮でき、今後将来性のある医学、看護、リハビリ、薬学等の学融合的分野の研究や調査を推進し、戦略的な研究分野を確立する。 科研費採択 <ul style="list-style-type: none"> 科研費等外部資金の申請・獲得の支援を行い、科研費採択者を前年度比15%増加させる。 専任教員等に占める博士号取得者の割合の増加 <ul style="list-style-type: none"> 専任教員等に占める博士号取得者の割合を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 科研費（申請）専任教員の全員（私学平均約1/3） 科研費（採択率）新規採択率25%以上（前年度20% [3/15件]） 査読付き論文数 教員1人あたり2件（含共著） 	<ul style="list-style-type: none"> 看護学科教員の科研費の申請方法に関する年2回程度研修を行い、申請を意義と申請方法と申請時の留意点を説明する。 看護学科教員の科研費申請を促し、申請書の申請内容の助言を行う。 看護学科教員の科研費採択率の向上を目指し、看護学科教員に採択率への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科専攻教員の全員が科学研究費申請に向けた活動支援の実施 日本学術振興会による研究倫理eラーニングの受講100% 学科内での科学研究費採択に向けた相互支援の実施 グループ病院のリハ部門との共同研究の実施 	<p>2022年度科研費申請が39本、採択件数16本、2023年度は申請が50本、新規採択件数が9本となった。2024年はさらに多くの教員の申請を促進し、研究倫理eラーニングコースを全員が受講し、さらに採択数を伸ばす。</p> <p>事務局の担当者より教員の申請書作成サポートを中心に、情報提供に努める</p>

2024年度 湘南医療大学 薬学部 重点項目における事業計画概要

2024年度 薬学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標	2024年度 薬学部医療薬学科 事業計画概要	
			薬学部医療薬学科	事務部
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 1. I R機能の強化	・大学等におけるI R機能強化に向けた取組を実施するため、統計解析等やI Rに関する知識を有し、学生に関する様々なデータの収集・分析を実施し、機関決定等に資する提案又は情報の提供を行うための専門職を配置する。 ・専任された職員は定期的に研修を受講する。 ・教学I Rを担当する組織・部局の概要（大学組織上の位置づけ等）及び教学I Rをきっかけとする教学改善の事例の紹介を情報公開する。		・IR活動に必要な部屋と担当者を決め、薬学部のIR資料の保管を開始する。 ・大学等におけるI R機能強化に向けた取組を実施するため、統計解析等やI Rに関する知識を有し、学生に関する様々なデータの収集・分析を実施し、機関決定等に資する提案又は情報の提供を行うための専門職を配置する。 ・専任された職員は定期的に研修を受講する。 ・教学I Rを担当する組織・部局の概要（大学組織上の位置づけ等）及び教学I Rをきっかけとする教学改善の事例の紹介を情報公開する。	他大学の薬学部が開示している情報について収集し、一覧を作成する。 受験時・入学時・入学後と学生に関する様々な収集した情報はデータ分析を行い、学生情報として保護者向けに開示できるように取り組んでいく。 上記の適性を有する職員を任命または採用する。 専任された職員は定期的に研修を受講する。
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 2.学修成果等の可視化	ディプロマサプリメント（学位証書や成績証明書の補足資料）など、各学生が修得した知識や能力等を明らかにするための取組を実施する。		ディプロマサプリメント（学位証書や成績証明書の補足資料）など、各学生が修得した知識や能力等の客観的資料として2023年度から作成した「個人成績カルテ」の拡充を行い、1)学生本人の成果開示による成績向上意欲の醸成、2)チューターによる個人指導への活用、3)保護者への成績状況の説明を推進する。「成績カルテ」による成績分析とそれに基づく教員各自のきめ細やかなチューター指導は、本学の「強み」として推進する。その他、成績に合わせて学生のキャリア支援に役立つような資料を検討し、高学年になる学生の支援体制をより一層強化する。	ティーチングポートフォリオの活用および、学修に関するアンケート等の分析を行い、学生の学修状況を学生カルテとして可視化する。
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目	入学者選抜実施体制の充実・強化のため、入試・学生募集に係る全学的な企画立案及び全学的な入学者選抜の評価を行う、専門的な専任教員等又は専任職員（アドミッション・オフィサー）を配置する。		入試ワーキング、広報ワーキングなど各委員の選定を行い、前年度入学者選抜の分析に基づく対策の立案を行う。 上記の適性を有する専任教職員を配置する。	
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 4.高等学校教育と大学教育の連携強化	高等学校教育と大学教育の連携強化に向けて、以下の取組を実施する。 ア 大学等における学修を高校生が経験する取組（合同授業の実施等）の実施 イ 高等学校又は教育委員会との年2回以上の定期的な意見交換体制の構築 ウ 高等学校と大学等との合同研修の実施 エ 高等学校と連携した入学前教育の実施		連携強化に向けて入学実績校を中心に、薬学部志望者の多い私立高校を重点的に、探究の授業と併せた模擬授業や研究室探究を実施していく。 目標：継続校に加えて5校との提携	
①「経常費補助金の獲得増及び私立大学等改革総合支援事業の採択」における重点項目 5.教育リソースの活用	オープンな教育リソースについて活用するため、以下の取組を実施する。 1 自大学等の教育リソースを広く提供し、講義の教材等としての利用又は自主学習ツールとしての活用を促す。 2 国内外の他大学等が提供するものを、講義の教材等として利用 3 国内外の他大学等が提供するものを、自主学習ツールとしての活用		他大学のオープンリソースの調査を行い、情報収集をする。 教務委員と情報共有をし、自主学習ツールとして活用ができるものを取り入れていく。 薬学部の教育リソースとしてHP上への講義動画の掲載に向けて準備をする。	
②授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用	「学生による授業評価」学生の理解状況を教員が次の授業に生かせるようなリフレクションペーパーを作成するとともに評価の低い授業科目は、担当教員から改善計画書の提出を求め、見直しを図る。	授業評価アンケート専門科目 総合平均数値 [薬学] 85%以上	学生の理解状況を教員が次の授業に生かせるようにリフレクションペーパーの書式を改訂し、授業改善に活用しやすいようにする。評価の低い授業科目は、担当教員から改善計画書の提出を求め、見直しを図る。 授業評価アンケート専門科目 総合平均数値 [薬学] 85%以上	ティーチングポートフォリオおよび、授業評価等各種アンケート調査の結果分析を行い、開講科目の平準化に向けて、教務委員と連携し取り組んでいく。

2024年度 湘南医療大学 薬学部 重点項目における事業計画概要

2024年度 薬学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標	2024年度 薬学部医療薬学科 事業計画概要	
			薬学部医療薬学科	事務部
③学修支援・CBT/OSCE対策支援	<p>・学修支援の充実 新入生の入試等の成績で基礎学力を見極め、入学前教育や個別の学修支援に役立てる。また、全学において、1教員が10名程度の学生をサポートし、履修計画から修学指導、学生生活相談などにきめ細やかに個別で対応する。</p> <p>・CBT/OSCE対策 3年次に「CBT演習」で化学・生物・物理の主要科目の問題演習を行い、習熟度テストや科目別テスト等の試験実施により本番環境に慣れさせていく。OSCEも試験環境の整備を行うとともに、低学年から臨床系実習科目で合格に必要な技術を習得させ、CBT/OSCEに特化した受験対策を実施する。また、成績低迷者に対するチューター面談、及び情報収集・提供等を随時行い、CBT/OSCE合格率の向上に拘る。</p>	<p>・定期試験追再試験受験者数の減少：80%以上の定期試験合格率</p> <p>・授業科目の合格者数の平準率80%以上</p> <p>・（薬学部）入学前教育履修率100%</p> <p>・（薬学部）CBT OSCE 対策準備：模擬試験60% 得点率50%以上</p>	<p>・OSCEトライアル実施のモニター結果を踏まえて、更なる環境整備を行う。</p> <p>・実務実習事前実習Ⅱ（4年前期）では、調剤、無菌操作、服薬指導、医薬品の供給・管理、薬物療法に必要な情報の取扱いなど、OSCEに向けて、主に基礎・基本的な知識・技能を身につけさせる。</p> <p>・実務実習事前実習Ⅲ（4年後期）は、OSCE対策となる実践的トレーニングを通してに基礎・基本的な知識・技能を定着させるとともに、態度を育む。医療スタッフコミュニケーションの実践などの教育を行い、OSCE全員合格を目指す。</p>	<p>入学前教育実施に向けて、入学手続き者への通知・連絡を確実に履行する。</p> <p>CBT/OSCE実施に向けて学内設備の整備を行い、本番環境に慣れるための対策が実践できるように準備していく。</p> <p>特にOSCEの事前審査に向けて、OSCE実施委員と協力し、準備を進める。</p>
④各学部の定員確保	<p>・「臨床教育に強い湘南医療大学」ブランドを確立し、学生募集活動を行う。</p> <p>薬学部130名の募集活動の改善を図り、定員を確保する。</p> <p>ア 高大連携校の増加及び高校との結びつきを強化する。</p> <p>イ 低学年層から受験を意識させる対策を行う。</p> <p>ウ 受験生ニーズとの合致、競合校の特徴（強み・弱み）、本学の強み・特徴、学生募集成功校の事例研究、などを分析して広報及び入試の強化を図る。</p> <p>エ HP・SNSなどの広報比重を増やしてタイムリーに更新を行い、教員の講義情報を発信し、志願者の情報確認を行う。</p> <p>オ オープンキャンパスや入試説明会などの内容を根本的に見直す。</p>	<p>資料請求者数・率：12,906件（+3%）（前年度12,531件）</p> <p>オープンキャンパス参加者数：1,325人（+10%）（前年度1,205件）</p> <p>出願者数：767件（+3%）（前年度745件）</p> <p>薬学部定員130名確保</p>	<p>HP内容の充実のため、教員の講義内容紹介や学生インタビューなど動画作成を行い、公開していく。</p> <p>オープンキャンパスへの参加率をあげるため、高校生に興味を持ってもらえる企画の立案など教職員で連携し行う。</p> <p>薬学部志望者の情報を確保するために高校との連携を強め、提携校の拡大をしていく。</p>	

2024年度 湘南医療大学 薬学部 重点項目における事業計画概要

2024年度 薬学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標	2024年度 薬学部医療薬学科 事業計画概要	
			薬学部医療薬学科	事務部
⑤休退学者減少への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の休退学者減少への取組 ・学生の学力や学習意欲を向上させるための教育プログラムや指導体制を充実させる。 ・学生の居場所や人間関係を作るためのコミュニティやチューターを提供する。 ・学生のメンタルヘルスや生活支援を行うための相談室や経済的支援を拡充させる。 ・学生の進路相談などのキャリア教育や情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中退率：（薬学部）休・退学率1.0%以下 ・（薬学部）授業出席率80%以上、科目単位取得率90%以上 	教育センターの活用とともに、これまでの休・退学および原級留置となった学生の出身校・入学時成績・高校在籍時の評定などデータ分析を行い、傾向を見出す。 また、入学後の成績や出欠状況などの情報も加えて、今後休・退学になりそうな学生の早期発見・抽出を教務委員およびチューターと連携し、取り組んでいく。	
⑥FD・SD研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・FD、SD研修の充実 全体研修会（大学部会）及び医療・教育研究会において、FD 活動長期計画に基づき、教育方法と研究領域をテーマにした組織的で持続的な数多くのFD 活動を積極的に実施する。 ・大学運営方針を全体研修会時に、理念からスタートする 本学の理念を実現するために、今年度の方針、「入学定員の確保、休退学者の減少、教育の質の向上、FD/SD活動、医療・教育研究科会での研究成果の発表、グループ5つの活動」等、全体研修会に全教職員が参加して職員の資質・機能の向上及び改善を図る。 ・自律的な学生を育てるための取り組み 「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」を育てる授業の実施を検討する。ディベート、ピア・インストラクション、復習テスト、ケースメソッド、PBL（Problem-based Learning, 課題基盤型学習、プロジェクト学習、反転授業等 	<ul style="list-style-type: none"> ・FD、SD研修の充実 全体研修会（大学部会）及び医療・教育研究会において、FD 活動長期計画に基づき教育方法と研究領域を進展できるように組織的で持続的なFD 活動を積極的に実施する。 ・大学運営方針を全体研修会時に、理念からスタートする 本学の理念を実践した「人を尊ぶ活動を実現」するために、今年度の方針である「入学定員の確保、休退学者の減少、教育の質の向上、FD/SD活動、医療・教育研究科会での研究成果の発表、グループ5つの活動」等において、教職員がお互いに思いやりのある活動を実践する。全体研修会に全教職員が参加して職員の資質・機能の向上及び改善を図る。 ・自律的な学生を育てるための取り組み 「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」を育てる授業の実施を検討する。時間割を効率よく運用し、学生主体的に学修できる復習方法の導入を試みる。その中で、時間的余裕の範囲でディベート、ピア・インストラクション、ケースメソッド、PBL（Problem-based Learning, 課題基盤型学習）、プロジェクト学習、反転授業等についても検討していく。 	全体研修を通じて、部内全員が大学運営方針およびグループの5つの活動について理解し、実践できるよう取り組んでいく。	
⑦3つのポリシーを踏まえた自己点検・評価及び認証評価への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価 各学部学科、大学院の3つのポリシーを踏まえた点検・評価の項目の見直しと評価結果のフィードバックと改善事項に対する報告書（案）を作成して学内の諸活動全てに、状況分析も含め、計画、実行、点検・評価・分析というPDCAサイクルを適用し、改善につながるシステムを確立して、実行する取り組み全ての進捗管理が出来るようにする。さらに、外部の意見も取り入れた自己点検・評価を実施する。 ・各学部学科が受審する認証評価機関の認証評価 データ及び、資料をIRに基づき蓄積し、準備を遅滞なく進める。 ・2025年度は、薬学部プレ認証評価受審年度 	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度は薬学部プレ認証評価受審年度であるため、2024年度はその資料である「自己評価2024」をホームページで公表するための準備期間である。 薬学教育評価機構に指示された根拠資料（エビデンス）の収集と基礎資料の作成、およびこれらに基づいた自己点検・評価書を薬学部全教職員の総力を挙げて作成・点検し、2025年のホームページでの公表に備える。 ・基礎資料の内容を精査し、必要項目の見直しと充足度の点検を行い、各委員会および事務職員に資料作成を依頼・確認する。その際、内容が3つのポリシーに準拠したものであるか再度確認する。 ・外部の意見を取り入れる機会を設け、「自己評価2024」の内容を点検する。 	今年度も継続して薬学教育評価機構による自己点検・評価の準備を進めるにあたり、他大学の取り組みについて情報収集し、部内においても情報共有を図る。必要な書類の収集・保管のために適任となる職員の選定および場所の確保をおこなう。	

2024年度 湘南医療大学 薬学部 重点項目における事業計画概要

2024年度 薬学部 事業計画の重点目標項目	具体的な取り組み内容	目標数値・指標	2024年度 薬学部医療薬学科 事業計画概要	
			薬学部医療薬学科	事務部
⑧学生の学修時間や学修成果の把握による教育活動の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 学修成果の測定：（アセスメントポリシーの策定） 直接評価：授業の課題や試験、ポートフォリオ、卒業論文、資格取得など 間接評価：授業内容や試験内容、学習時間、学生満足度など 本学の学習成果の測定内容を検討し、ポリシーとして定め、3つのポリシーと併せ、評価していく。 		ティーチングポートフォリオ、および定期試験成績、学修アンケートといったデータを分析し、学修状況を教務委員と連携して活用していく。	
⑨キャリア支援と地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> グループ病院施設及び地元薬剤師会との連携による地域貢献（入試制度・奨学金・共同研究） グループ推薦入試制度を薬学部でも実施する。 また、奨学金をより利用しやすい制度（年数や金額）を検討する。グループの保健・医療・福祉・教育機関と共同研究を進め、その成果を大学教育及び地域社会に還元を目指す。また地元薬剤師会との連携も検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職者数・率：就職希望者の就職率100% グループへの就職率：[看護] 50%、[理学・作業] 50% 公開講座：10件163人（前年度+10%（23年公開講座7回65人、戸塚区67人、生涯学習24人合計156人）） 地域貢献事業：5事業（前年度2事業(23年戸塚区、神奈川県生涯学習センター） 中学校キャリア教育（職業体験等）：3校（前年度1校。湘南学園） 	<ul style="list-style-type: none"> 将来医療貢献ができる人材を育成するための教育活動の1つとしてインターンシップ実習（就業体験学修）が自由選択科目として4年次～6年次にかけて事前教育後に就業体験実習を行う。 自己の職業適性や将来設計、主体的職業選択、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、就職後の職場への適応力および高い職業意識を養う。 地域貢献事業の一環として、神奈川県薬剤師会、横浜市薬剤師会、神奈川県病院薬剤師会との研修会事業への協力体制の構築。 中学校キャリア教育への参画機会を増やす。 中学・高校生を対象にした薬物乱用防止啓発活動の地域拠点を大学として目指す。 災害時医療支援などへの具体的な方針の検討。 	キャリア支援として、2024年度はグループ病院施設におけるインターンシップの実施に向けて準備および調整を行う。
⑩研究力向上に係る学内計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> 大学等のミッション・建学の精神等に基づき大学等の強みや特色を特定し、それを伸長させる研究計画の策定 大学等の個性・特色が発揮でき、今後将来性のある医学、看護、リハビリ、薬学等の学融合的分野の研究や調査を推進し、戦略的な研究分野を確立する。 科研費採択 科研費等外部資金の申請・獲得の支援を行い、科研費採択者を前年度比15%増加させる。 専任教員等に占める博士号取得者の割合の増加 専任教員等に占める博士号取得者の割合を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 科研費（申請）専任教員の全員（私学平均約1/3） 科研費（採択率）新規採択率25%以上（前年度20% [3/15件]） 厚生労働科研費 採択数 2件（現行2件） 査読付き論文数 教員1人あたり2件（含共著） 	公的研究費の獲得 <ul style="list-style-type: none"> 科研費申請：科研費の申請に向けた支援を行う。 研究倫理eラーニング受講の徹底、早期に100%達成する。 科研費採択率の向上：採択率の向上を目指した支援を行う。申請書の書き方講習を検討する。 厚生労働科研費の申請：薬学分野では科研費（文科省）と並んで厚労科研費の申請が重要である。申請期間、申請方法などを周知するなど、厚労科研費の申請に向けた支援を行う。 査読付き論文数の確保 共同研究を行うことは重要な一つの戦略である。共同研究の支援等を行っていく。 論文数を確保することは、専任講師等に占める博士号取得者の割合増加にも重要であるので、論文執筆の支援等を行っていく。 	科研費新規採択率向上のため、今年度も引き続き申請書類の作成補助および科研費執行の適切な管理を行う。学外関係者との連携をとり、共同研究および助成金の獲得に向けて教員のサポートをしていく。

2024年度 湘南医療大学大学院 保健医療学研究科 重点項目

番号	項目名	項目の説明
①	大学院教育の充実	大学院保健医療学研究科は、修士課程に加えて博士後期課程の設置により大学院生の受入れ体制(学士課程からの情報提供、卒業生に向けた研究活動の情報提供)、履修指導、研究指導体制を充実させて、院生の研究教育活動の遂行に資する。
②	各学部の定員確保	<p>アドミッション・ポリシーを遵守した学生募集活動を展開し、定員確保を目指す。</p> <p>○ 受験生ニーズとの合致、競合校の特徴(強み・弱み)及び事例研究、本学の強み・特徴などを分析して、受験生が本学にアプローチする方法に対する広報の強化を図る。</p> <p>○ 本学 HP・SNS などのオンライン活動の比重を増やしてタイムリーに更新を行い、教員や講義情報を発信し、志願者の情報確認をスムーズに行う。</p>
③	休退学者減少への取組	休退学者減少への取組は、大学の役割や社会的責任を果たすために必要なことであり、大学の魅力やブランド力を高めることにもつながる。休退学の兆候を早期に指導教員が発見し、適切な支援を行い、年間休退学率を各領域2名以下に抑える。
④	FD・SD 研修	2ヶ月に1回行う全体研修会(大学部会)、及び年2回実施する医療・教育研究会において、FD 活動長期計画に基づき、教育方法と研究領域をテーマにした組織的で持続的な数多くの FD 活動を積極的に実施する。また、新たな社会的価値の創造のため、研究の重点化を図り、戦略的な研究分野を確立する。
⑤	認証評価への取組み	認証評価に向けて、データ及び、資料を IR に基づき蓄積して準備を遅滞なく進める。自己点検・評価は大学院の3つのポリシーを踏まえた点検・評価の項目の見直しと評価結果のフィードバックと改善事項に対する報告書(案)を作成して学内の諸活動全てに、状況分析も含め、計画、実行、点検・評価・分析という PDCA サイクルを適用し、改善につながるシステムを確立する。また、この PDCA サイクルで実行する取り組み全ての進捗管理が出来るようにする。さらに、外部の意見も取り入れた自己点検・評価を実施する。

2024年度 湘南ふれあい学園 専門学校 重点項目における事業計画概要

茅ヶ崎看護専門学校	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	湘南医療大学下田看護専門学校	医療ビジネス観光福祉専門学校
<p>① 理念の実践 ふれあいグループの理念を元に、全職員参加の5つの活動を教職員一丸となっていく。</p> <p>② 国家試験の合格率100% 1年次より国家試験対策を計画的に実践し、基礎学力を向上させる授業を展開し、国家試験合格率100%合格の「礎」を築く。</p> <p>③ 休退学の防止 学生に対し、丁寧に指導・支援を行い、良き学修習慣と専門職業人としての倫理観を身につけるように導く。</p> <p>④ ふれあいグループへの就職の促進 ふれあいグループ就職者75%を目標、インターンシップ年3回開催、ふれあい奨学金受給者各学年50%を目標。奨学金受給の支援をする。</p> <p>⑤ 学習支援（基礎学力の向上） 数学・国語・解剖生理学などの補習講義を行い、「学ぶ力」を習得する。 各学年担当が朝学習と放課後に補習学習を行い、終講試験で合格、再試験数減少を目指す。試験結果より学習低迷者を早期発見し、支援する。各科目の試験見直しをチューター教員が早期発見し、支援する。</p> <p>⑥ 研究活動の実施とスキル向上 魅力ある教授方法を他教員講義を参観して相互研鑽を行う。領域別会議・国家試験対策会議を行い、スキルアップと自己研鑽を行う。学生のモチベーションを上げる工夫・教育方法を実践する。事務スキルの向上を図り、教員と事務にて連携を深め効率的な業務改善を行い、公休残「0」と超過勤務削減を目指す。</p> <p>⑦ 授業評価等を活かした業務改善 前年度の各科目の授業評価とリフレクションペーパーを分析し、教授方法について事例検討を行う。看護師になるという動機づけ、学ぶことの楽しさ、看護を行うことの喜びを喚起する教育を実践する。</p> <p>⑧ 学部昇格申請の推進 2025年4月開設学部昇格申請の資料作成や準備を遅滞なく進める。</p>	<p>① 休退学の防止 確認テストや個別指導等を徹底し、単位が取得できるまで指導する。</p> <p>② 学習支援 成績低迷者の個別指導を徹底し、学生の学習意欲を高める。</p> <p>③ 国家試験の合格率100%を目指す 苦手分野の把握を徹底し、成績下位層の学生を中心に個別指導を実施する。</p> <p>④ ふれあいグループへの就職の促進 成績及び人物評価の高い学生を確実にグループへの就職に導く。</p> <p>⑤ 授業評価をもとにした授業改善 授業評価の結果と確認テストの結果から授業の改善ポイントを全教員に指示する。</p> <p>⑥ 高専連携授業の拡大 昨年度2件の高校への出前授業を、本年度は広報・宣伝し5件以上実施する。</p> <p>⑧ 各種申請のタイムテーブル管理 健康科学部設置に向けた諸申請手続き等、スケジュール管理を徹底する。</p>	<p>① 理念の実践 ・理念の示す医療人としての社会常識を身に付け、モラルの高い人材となるよう指導する。</p> <p>② 休退学の防止 ・学力低迷による休退学を減らし、0人を目指す。学生の生活態度、成績に気を配り、兆候を早期にキャッチできるよう対応し、情報取得後は、速やかに個人面談等の対応をする。</p> <p>③ 学習支援 ・再試験受験者数を低減し、確認テストの得点率をあげる。</p> <p>④ 国家試験の合格率100% ・教材の十分な活用と学内模試試験・確認テストの更なる充実をめざす。</p> <p>⑤ ふれあいグループへの就職の促進 ・入学前から卒業までの間に、ふれあいグループへの入職が増えるような指導を充実させ、ふれあいへの就職率80%（30人）を目指す。</p> <p>⑥ 実習施設との連携 ・学生の実習に係る情報を実習施設と共有していく。</p> <p>⑦ 研究活動の実施 ・学生の社会人基礎力の向上に寄与する研究活動を実施し、成果をフィードバックする。</p> <p>⑧ 教務と事務の円滑な連携 ・重点項目の目標達成を目指して、教務・事務の連携を図る。</p>	<p>① 理念の実践 理念が示す医療人としての社会常識を身に付け、モラルの高い人材となるよう指導する。また、日々の学習活動や学校行事への積極的な参画を通じて、自己のエンゲージメント力を高めるとともに、問題解決能力を養う。</p> <p>② 学生募集（定員確保） 志望者および高校・日本語学校に対し、本校および学科の特長を広くWeb・SNSを中心に発信していくとともに、卒業目標にかなう高い修学意識と、グループ就職への意識を持った学生を獲得する。</p> <p>③ 教育の概要（カリキュラム運営計画）：卒業の認定に関する方針（DP）、教育課程の編成及び実施に関する方針（CP）</p> <p>④ 休退学の防止 学生の個性に合わせたフォローアップを実施し、学生との信頼関係を構築し深める。教務・事務で学生情報を共有し、カウンセリングも行いながら学生サポートを実施する。退学率8%未満 除籍率0% 進級・卒業率90%以上を目指す。</p> <p>⑤ 学習支援 「わかるまでできるまで」を基本・基礎とし、小テストや補講を繰り返すことで個々の知識・能力引き上げを図る。</p> <p>⑥ 国家試験及び各種検定試験の合格率100%を目指す</p> <p>⑦ ふれあいグループへの就職の促進 ふれあいグループの各病院・施設との関係性を深め、理念を実践できる有為な人材をグループで協働して育成し、グループへの就職につなげる。就職率80%以上、5年離職率0%の実現を目指す。</p> <p>⑧ 実習施設との連携強化 学生情報を実習施設と共有し、介護部会（老健部・有料部）、医事部会との連絡も今まで以上に密にして連携の強化を図る。</p> <p>⑨ 各教職員の知識・技術向上と学校全体の組織力強化</p> <p>⑩ 地域連携及び附帯外部講座の運営</p>

VI 財政計画

予算案の概要

2024年度予算編成方針

本学園の永続的な維持・発展に向けて、安定した財政基盤の確立を図りつつ、教育・研究・地域貢献の一層の活性化を進めていくため、2024（令和6）年度予算編成の基本方針を次の通り定める。

1 本学園の財政状況

I. 本学園の財政状況

令和4年度決算において、学校法人の経常的な収支バランス（教育活動収支・教育活動外収支）を示す経常収支差額は約8億2,550万円の支出超過であった。部門別では、湘南医療大学が9億1,787万円の支出超過、また、4専門学校及び認定こども園の計が1億5,315万円の収入超過であった。

今後、収入面では、湘南医療大学保健医療学部看護学科60名増員3年目、薬学部4年目の学生増による収入増で、2,803百万円の学生生徒納付金収入を計上し、前年度比2億円の増収となるものの、薬学部及び4専門学校における入学定員未充足による予定学生納付金収入の減（各校収容定員充足率100%（2,438名）対比で減）、また、支出面では、湘南医療大学健康科学部（仮称）設置計画による減価償却額の増などにより、経常収支差額は支出超過になることが予想される。

このような状況下において、教育研究環境の向上及び将来的な施設、設備等の更新に伴う財源確保のため、一層の財政状況の改善を図る必要がある。

II. 2024（令和6）年度予算編成の基本方針

1. 財務指標

将来の安定した学園の事業計画の達成並びに財政基盤を維持するため、経常収支差額の支出超過の減少に努めることを目標とする。

2. 基本的な考え方

(1) 収支構造の見直し

各部門において、経常収支の均衡を基本とした予算措置を行う。特に湘南医療大学においては、増収に向けた実効性のある取組に基づく収入予算の設定、また、支出予算の必要性、有効性、優先度等の観点から適正化に向けた検証を行う。

教育研究経費及び管理経費の消耗品及び水道光熱費の増額、薬学部及び山手校舎学年進行による管理経費の増額を見込んでいる。

(2) 人件費

人件費については、各部門の収支状況を踏まえた適正な人員配置、及び人事計画に基づく予算措置を行う。特に、教職員の欠員補充、新設学部並びに別科の設置準備に係る新規組織準備教職員に伴う人件費の増加を見込む。

(3) キャンパス整備事業

湘南医療大学健康科学部（仮称）校舎の借用及び教育用備品に係る必要額の予算措置を行う。また、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校の大学昇格に向けた校舎の改築、グループ医療施設 THP の施設を改築利用して湘南医療大学介護福祉別科の運営など施設、設備備品の購入費・更新については、優先度を考慮し、必要な事業の予算措置（2 億 4,000 万円）を行う。当該予算の財源確保は、ふれあいグループ法人医療施設からの寄付金 2 億円の計上及び自己財源を充当する。

1. 資金収支予算書

2024（令和 6）年度予算における収入は、学生生徒等納付金収入 28 億 362 万 8,600 円、寄付金収入 2 億円、補助金収入 5 億 810 万 6,600 円、付随事業・収益事業収入 3,343 万円、前受金収入 17 億 5,037 万円などの収入に前年度繰越支払資金 23 億 6,236 万 561 円を加えた収入合計は 63 億 1,147 万 7,061 円を見込んでいる。また、支出は、人件費支出 22 億 1,471 万円、教育研究経費支出 11 億 8,153 万 5,000 円、施設関係支出 2 億 6,170 万円、設備関係支出 6,045 万円など、収入合計からこれを差し引いた翌年度繰越支払資金は 19 億 5,220 万 3,061 円を予測している。

2. 事業活動収支予算書

2024（令和 6）年度予算における事業活動収入は 36 億 7,661 万 4,000 円、事業活動支出は 44 億 8,787 万 5,000 円となり、基本金組入前当年度収支差額は 8 億 1,126 万 1,000 円の支出超過が見込まれている。当額から基本金組入額合計 3 億 6,006 万 6,000 円を差し引いた当年度収支差額は 11 億 7,132 万 7,000 円支出超過となり、これに前年度繰越収支差額 49 億 9,390 万 4,695 円（支出超過額）を加えた翌年度繰越収支差額は 61 億 6,523 万 1,695 円（支出超過）を見込んでいる。

ウ 主要財務指標

(%)

比率名	算出方法	令和5年度 予算	令和6年度 予算	全国平均 (R4)
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	61.8	62.4	50.9
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	82.0	80.1	69.3
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	46.0	46.8	36.1
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	14.8	13.8	8.5
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-24.0	-22.1	4.6
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	114.0	111.2	104.7
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	75.4	77.8	73.5
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	5.6	5.6	1.9
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	14.3	14.1	14.4
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	12.7	12.7	11.5
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-23.3	-21.8	4.2
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-22.6	-20.6	4.2
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	-8.7	-9.8	8.9

経常収入＝教育活動収入＋教育活動外収入計 経常支出＝教育活動支出＋教育活動外支出計

は日本私立学校振興・共済事業団「令和5年度版今日の私学財政」より医歯系法人を除く

の全国平均を記載。

VII 施設・設備計画

2024年度の主な施設・設備計画については下記のとおりである。各学校の教育備品の購入計画等に基づき、教育環境の充実を図る。

学校名	事項	予算額（千円）
湘南医療大学	保健医療学部：図書/データベース等、教育用管理用備品	15,200
	大学院保健医療学研究科：図書等、教育用管理用備品	1,150
	薬学部：図書/データベース等、教育用管理用備品	7,6100
	専攻科：図書/データベース等、教育用管理用備品	350
	別科準備（※本部支出に計上）：	9,000
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科：教育用管理用備品、図書	7,200
湘南医療大学附属 下田看護専門学校	看護学科：教育用管理用備品、図書	7,000
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	理学療法学科他2学科：教育用管理用備品、図書	4,000
医療ビジネス観光福祉専門学校	介護福祉学科他2学科：教育用管理用備品、図書	2,500
幼保連携型認定こども園 みどり幼稚園	教育用管理用備品、図書	700

VII 生涯学習事業

看護系研修は、湘南医療大学看護キャリア開発コアセンターにおいて、以下の通り計画されている。

- ・ 看護師実習指導者講習会 1回開催
 - ・ 認定看護管理者（ファーストレベル、セカンドレベル）養成課程 各1回開催
- また、認定看護管理者（サードレベル）養成課程設置申請を予定している。

その他、介護系研修として、ふれあい医療福祉研修センターにて以下を計画している。

- ・ 介護福祉士実務者研修 1回開催
 - ・ 介護福祉士国家試験対策講座 1回開催
- 以上

IX 収益事業

不動産賃貸業の検証を行い、収益向上に努める。

X 監査計画

学校法人湘南ふれあい学園監事監査規程第4条の業務監査及び財産の状況監査について、監事が作成する2024年度監査計画に基づき、監事監査を実施するとともに、監事、会計監査人及び内部監査班との連携を強化する。また、監査対象の監査報告に対する意見聴取を行い、今後の監査に活かす。

監査の対象

- ・業務監査：理事、湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校
- ・学校会計監査：公認会計士と連携

監査の方法

- ・理事会、評議員会等の主要な会議に出席
- ・各学校（園）の業務監査を、監事が学長、学校長とヒアリング形式で実施する。
- ・公認会計士と監事が面談による会計監査を実施する。

監査の実施時期

- ・定期監査（業務監査）内部監査終了後、2024年12月～2025年3月の間に実施
- ・内部監査（2024年8～9月頃予定）は、内部監査班が実施
- ・会計監査（2025年4～5月）は、公認会計士、内部監査班と連携して実施

監査報告書の作成

監査報告書

- | | |
|--------|----------------|
| （業務監査） | 2025年3月までに報告する |
| （会計監査） | 2025年5月 |